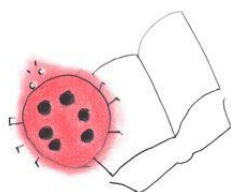


報道関係者 各位 プレスリリース



2026 年 10 月 6 日

日本点字図書館

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場 1-23-4

理事長 長岡 英司

電話 03-3209-0241 FAX 03-3204-5641

E-mail nitten@nittento.or.jp

第 23 回「本間一夫文化賞」の決定について — NPO 法人「支援技術開発機構」副理事長 河村 宏氏—

社会福祉法人日本点字図書館は、本間一夫文化賞選考委員会（委員長：社会福祉法人恩賜財団済生会 炭谷茂 理事長）において、第 23 回受賞者を特定非営利活動法人 支援技術開発機構 副理事長の河村宏（かわむら・ひろし）氏に決定いたしました。

受賞者の河村氏は、東京大学総合図書館在職中に視覚障害学生と出会ったことから、図書館の障害者サービス分野の問題に取り組み始め、1990 年から 1995 年まで国際図書館連盟（IFLA）の盲人図書館セクションの常任委員会議長を務められました。1996 年にはデジタル録音図書の国際規格「DAISY（デイジー）」の開発団体である「DAISY コンソーシアム」の設立に参画、同規格の開発と国際標準化、普及活動に長年尽力されてきました。2008 年から 2011 年までは同団体の会長も務められました。同氏の DAISY 普及活動は図書館の障害者サービス分野にとどまらず、文字の読み書きに困難のある学習障害「ディスレクシア」や外国にルーツを持つ子どもたちのためのデジタル教科書製作、防災マニュアルへの応用、途上国への製作技術移転など、広範多岐にわたります。



さらに、障害者放送協議会での著作権法改正活動や JICA プロジェクトを通じた国際協力など、障害の有無にかかわらず「知へのアクセス」を得られる環境整備を力強く牽引してこられました。

本年 DAISY コンソーシアム設立 30 周年という節目を迎え、読書バリアフリーへの関心が高まる中、現在も国内外のネットワークの要として世界を舞台に精力的に活動され続けています。現在国が設置している「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る関係者協議会」の委員としても、読書バリアフリー法の理念の社会実装と視覚障害者等の読書環境向上のために、国際的な最新知見に基づく提言をされています。

こうした活動姿勢とリーダーシップは後進の模範となるものであり、本年度の本間一夫文化賞に最もふさわしいとして、選考委員の総意で受賞が決まりました。

本間一夫文化賞は、2003 年 8 月に他界した日本点字図書館創業者・本間一夫を記念して 2004 年より設けられた賞で、視覚障害者の文化・福祉・教育の向上に貢献した個人・団体に毎年贈られるものです。

社会福祉法人読売光と愛の事業団様には第 1 回から受賞者決定に関する記事の全国紙への掲載と記念品のご協賛をお願いし、長きにわたり多大なお力添えをいただいております。10 月 7 日読売新聞紙上の記事掲載をもって発表とさせていただきます。

(選考委員)

炭谷 茂 社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長 (選考委員長)
公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会 会長

岡本 厚 株式会社岩波書店 前代表取締役社長
桑原有樹 社会福祉法人読売光と愛の事業団 福祉助成部長
迫田朋子 NHK 元エグゼクティブディレクター・解説委員
三田誠広 作家・公益社団法人日本文藝家協会 副理事長
本間一明 本間一夫長男

(協賛)

社会福祉法人 読売光と愛の事業団
公益財団法人 日本テレビ小鳩文化事業団

(後援)

公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会
社会福祉法人 日本盲人福祉委員会
社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会
社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団
社会福祉法人 NHK厚生文化事業団
公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団
株式会社 毎日新聞社 点字毎日部

【 社会福祉法人日本点字図書館について 】

1940 年本間一夫により創設。点字図書・音声図書の製作・貸し出し、視覚障害者用具の販売・普及、視覚障害者の自立支援・訓練、「ふれる博物館」の運営等の事業を行なう日本最大の視覚障害者情報提供施設。視覚障害者等情報総合ネットワーク「サピエ」のシステム管理も行なっている。

ホームページ : <https://www.nittento.or.jp/>